特279-14
1200501131797
特279
14

考古圖集

始

○東京市外日暮里町字谷中延命院貝塚發見土器（三宅米吉氏藏）　上野公園の臺地北に延びて日暮里の臺地となり飛鳥山となつて終る。その低地に接するところ貝塚點在す。本貝塚その一たり、今は人家上に櫛比して之を見るべからざるも、嘗て關保之助氏等の搜査せしことあり。（人類學雜誌三九、四六號參照）地下數尺に埋沒せし貝塚なりしが如し。この急須形土器は本貝塚發見のもの、高四寸餘腹徑四寸七分、底面に編物形の文樣を印せるの外文樣なし、所謂アイヌ式土器の一たり。

○下總結城郡上川村字矢畑發見土偶（中澤澄男氏藏）　矢畑の遺蹟は人類學雜誌百四十號に於いて川角寅吉氏「汀家漫錄」と題せるものゝ中に略述せり。本土偶は書通に見るところと趣を異にし、表面は土偶となすべきも裏面によれば土版といふも可なり。土偶と土版との關係については學說一致するところなきも、本遺品の如きは兩者の聯絡肯定論者の一好資料たるべし。岱赭色をなすも、裏面の半は黑色を呈す。幅四寸五分、高四寸四分、厚下底にて八分五厘。

○傳上野國群馬郡瀧川村字八幡原發掘埴輪鞆（黑川眞道氏藏）　鞆は武裝の一として用ひられしは明かなるも、著用については未だ定說なし。奈良時代の鞆は埴輪鞆と型式に殆んど異なるものなし。しからば奈良時代の武器は上代のものと同一型式のもの多きが如きを以て、直ちに埴輪鞆を奈良時代のものとはなし難きも少くも是が年代を古墳前期にまで遡らしむべからず。埴輪鞆は關東地方に發見せらるゝもの、寡聞未だ是が關西地方にあるを知らず。而して本品はその發見地明確ならざるも、その弧狀の帶文樣として鱗文（鋸齒文）を用ひ一見直弧文に似たるものあるは珍とすべし。埴色を呈す。高八寸三分。

○上總國木更津町稻荷森發掘鈴（西川勝三郎氏藏）　我が上代の民俗、鈴を好んで用ひしが如く、遺物に往々之を見るも、かゝる優品は稀に見るところなり。

銅製にして球狀をなし、兩半球面を各縱橫二帶を以て四分し、各區に小孔、圓及び唐草樣の浮文樣あり。殊に唐草樣の文樣に至つては、その手法原始的にして一種の趣あり。鐵丸を中に入る。高三寸五分。

○傳奈良地方發見塼佛（內藤虎次郎氏藏）　塼佛はその遺品稀なり。而して本塼佛の如き圖樣に至つては寡聞他に類品あるを知らず。梅原末治氏に據れば、圖樣より

見るに十二神將の一たるが如く、手法より察するに奈良時代を更に下るものに非ざるべく、奈良地方發見と傳ふるも、或は唐代のものたるやも知れずと。臺座下の佛像等亦見るべし。現存部總高約九寸、幅最廣約三寸七分。

○伊勢宇治山田市小町塚發掘瓦光背（和田千吉氏藏）　小町塚については、考古界二ノ一二に和田千吉氏「伊勢發見の瓦經」の中、その一名たる山田天神山として之を述べたるも詳細を知るべからず。光背は瓦製にして柄を含めて高さ八寸四分、幅上部四寸六分、下部五寸七分、厚六分あり。淡灰色を呈し肌目密なり。八瓣の蓮花を珠文帶にて繞らし、之が外に九體の梵字化佛をおき、唐草文その間を塡む。周緣に火焰あり。銘によるも平安末期の遺品たること明かなり。小町塚發見の瓦經には承安四年の銘を有するもの往々あり。本光背は是等と關係を有するものならん。

○熏韋威妻取鎧（關保之助氏藏）　讃岐小豆島の飽浦左衞門尉佐々木信胤所用と傳ふるもの、冑・胴・千旦・鳩尾・袖・脇盾を具備せり。「冑」は三十六間二方白の筋鉢にして八幡座の金物を失へり。響穴四天鋲あり。鍬形臺、秡立共に鍍金の魚子地に草花を毛彫にせるもの、本小札五枚鞠にて四枚を吹返にせり。「胴」の金物は鐵地に黑漆を施せるもの、本小札仕立にて草摺五段あり。すべて熏韋にて威せり。

袖に水呑環のみにして笄金物なし。製作すべて朴素にして雄大、甲冑としての優品たり。足利時代の初期を下るものに非ざるべし。

○樂山燒倉持權兵衞作花瓶（廣瀨都巽氏藏）　口と底に張を見せ胴紐を有し比較的大形の耳を附せり。總體に淡褐色にして僅に青味を帶び、上釉に小罅を示す。簡素なる草花と紋章の如きを一體に繞らし、「天和三年、九月吉日、倉持權兵衞、作之」と四行に欵し、底にも珍らしく圓印を押せるも磨滅して之を讀むべからざるは惜むべし。手法なり亦その樣式なりに於いて彼本來の新鮮を見るべく、素朴の中に雅致と力を具へたり。高七寸一分三厘、口徑三寸一分、底徑三寸四分二厘。

○支那西安附近發見塼佛（高橋健自氏藏）　塼佛は堂塔內壁面の裝飾に用ゐられしものなるべきは、高橋健自氏說あり。（津田敬武氏著釋迦像の研究九六頁）　本遺品亦然るべし。高約四寸五分下底に於いて幅三寸四分五厘厚六分五厘、圖樣は釋迦三尊を半肉彫にしたり。釋迦は寶宇形の光背をつけ、片外しに衣服をつけ、定印を結んで金剛座に坐し、兩足を蓮座の上に載せたり。挾侍の二尊又花莖の上に開ける蓮座の上に立ちたり。共に衣服のすいて內に包める肉體をあらはせるは、グプタ式の影響と見るべきも、圖樣の均齊の甚しく素れざるは以て本遺品の初唐のものたるを知る。

三宅米吉氏藏

東京市外日暮里町谷中延命院貝塚發見土器

中澤澄男氏藏
下總結城郡上川村矢畑發見土偶

黑川眞道氏藏

鞆輪埴堀發村川瀧國野上傳

西川勝三郎氏藏
鈴堀發森荷稻近附津更木總上

第七集（家寶號）

內藤虎次郎氏藏
傳奈良地方發見埼佛

第七集（家寶號）

和田千吉氏藏

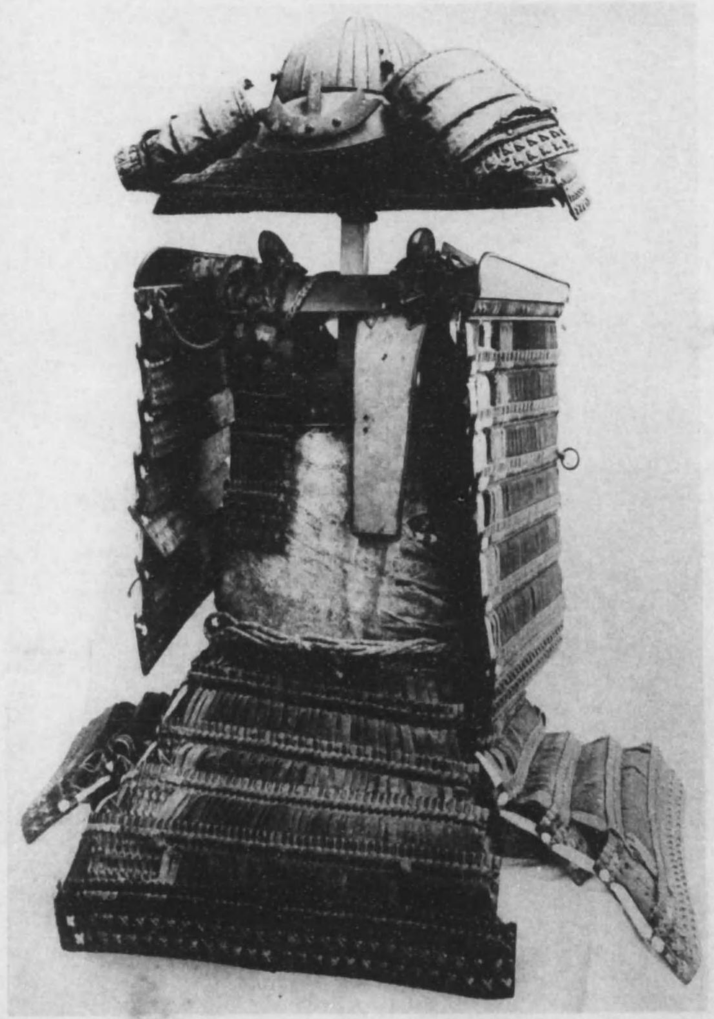
（面）背光瓦堀發塚町小市田山治宇勢伊

和田千吉氏藏

伊勢宇治山田市小町塚發堀瓦光背（背）

第七集（家寶號）

關保之助氏藏
兜　韋威妻取鎧



廣瀬都巽氏藏

樂山燒倉澤權兵衛作花瓶

高橋健自氏藏
支那西安附近發掘塼佛

第七集（家寶號）

終